

三島駅南口周辺開発 地下水対策検討委員会

第2回検討会

- 第1回委員会の対応等 -

平成29年6月28日(水)

1. 第1回委員会における

主な質疑・応答の概要

1. 第1回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(1)三島駅周辺で過去に実施された調査について</p>	<p>委員:過去の調査について、一般市民はあまり知らないと考える。一般市民に対して、今後どのように情報を提供し、理解してもらうのか。</p>	<p><u>HPで会議資料を公開</u>していく。 <u>広報においても、今後分かりやすくまとめたものを公開</u>する。 <u>市民を対象とした説明会の開催</u>についても検討していく。</p>
	<p>委員:一般の方が理解できる平易な言葉の利用なども含めて検討頂き、分かるような形で公開して頂きたい。</p>	
	<p>委員長:現況の地下水と地表の状況が分かりやすい図を作成する必要があると考える。</p>	<p>地下水は地表から10m程度下にあるが、<u>今後分かりやすい資料を用いて説明</u>していく。</p>

1. 第1回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(2)三島駅南口広域観光交流拠点整備事業の事業者提案について</p>	<p>委員:排水は釜場により行われることが想定されている。地下水が溜まることが想定されるのか。</p>	<p>地下水が基本的に溜まることはないが、不測の事態や降雨時の対応のために、釜場排水での対応が考えられている。</p>
	<p>委員:建物の位置が決まっているが、用地内でのボーリング調査は実施したのか。</p>	<p>敷地内でボーリング調査は実施済みである。</p>
	<p>委員:地表から10m程度下に地下水位があるとの説明であったが、地表から15mとの説明もあった。何が違うのか。</p>	<p>いつのどの時期を基準にするかなどによって、地下水位の表現は変わる。 先ほどは、平成5,6年のボーリング調査の孔内水位の結果等を踏まえ、概ね平均的に地表から10m程度と説明したつもりである。 今回は最新のデータに基づき、ピンポイントの地下水位として、地表から15mと説明した。説明の観点が異なっている。</p>
	<p>委員:昔より地下水面が下がったと理解してよいのか。</p>	<p>地下水位は下がっていない。資料2のp.11の二つの図を比べて頂きたい。図に示すとおり、地下水位は概ね同様であることが確認できる。 モニタリングは、今後も継続する必要があるが、現時点の結果においても、顕著な地下水位低下は確認できない。</p>
	<p>委員:地下水モニタリングは、事業者だけでなく、市も行う予定はあるのか。</p>	<p>現在も行っているが、事業が始まって継続する予定である。</p>

1. 第1回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(3)三島駅周辺で現在実施中の調査について</p>	<p>委員:楽寿園の池の水は、6, 7年で満水になるというような変動を示すが、西街区や東街区において、地下水は地表から10~15mで安定しているのか。</p>	<p>地下水は、年間を通して変動していることが確認できる。長期的な視点で地下水の変動を確認すると、5, 6年に1度、地下水位がかなり高くなる時期があるため、この時期と楽寿園の池が上昇することが関係している可能性がある。 <u>今後、データの蓄積を行い、変化を確認していく。</u> 静岡県も地下水のデータを公開しているので、次回の検討会には<u>これらのデータを整理して、説明できると考える。</u></p>
	<p>委員:小浜池の水位は、確かに年平均が80年、86年、99年、2012年に上がっている。三島市では、10年以上くらい前のデータも所有しているか。</p>	<p>所有している。 ※2011年に楽寿園小浜池は満水(水位150cm以上)を記録した ※資料3にて説明</p>

1. 第1回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
意見交換	<p>委員: 直接基礎を再度検証すると記載されている。溶岩なので相当強度があると考え。どのような検証を行うのか。また、過去のボーリングデータと昨年実施したボーリングデータは整合が取れているか。</p>	<p>最終的な計算書などを確認しているわけではないため、最終確認を行う旨を記載している。 ※資料4にて直接基礎の妥当性について確認</p>
	<p>委員: 西街区の溶岩の厚さは、場所によってかなり違うと考えるが、どのくらいの幅で変わるのか。</p>	<p>西街区に相当するB-2とB-4のボーリングデータが手元にあるが、それほど変わらないことが確認できる。 その他のボーリングデータと照合しても、西街区の溶岩の層厚は、15m程度であることが確認できる。</p>
	<p>委員: 地下水の流速はどのくらいか。</p>	<p>流速は、地質によって5オーダーくらい変わる。 例えば、砂礫であれば1秒間で0.001~0.01m(1日で86~860m、1年間で31~314km)となり、粘性土層であれば1秒間で0.00000001m程度(1日で0.9mm程度、1年間で32cm程度)となる。 イメージが付きにくいと思うが、扇状地だと1年で100m動くと、速い流速の地下水と考えられている。</p>
	<p>委員: 建物の建築においては、水の利用が考えられる。どこから水を取水するのか。また、不要になった水はどのように処理する予定なのか。</p>	<p>工事用水は、水道水を利用することになると考えている。 排水については、地下水排水は不要と予想され、大量の排水は生じないと考えられる。仮に排水する場合でも、排水基準を満足するように処理した上で排水するよう、今後の詳細検討に合わせ、対応していく。</p>

1. 第1回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
意見交換	<p>委員: 次回の検討会においては、事前に資料を提供頂きたい。</p>	<p>承知した。</p>
	<p>委員: 三島溶岩流の想定範囲が記載されているが、三島溶岩は、分布範囲外にはほとんどないという理解でよいか。</p>	<p>溶岩の分布域や想定地層断面の作成においては、点のデータを繋げることで作成を行っている。 ボーリング調査だけの結果により、完全に溶岩の分布を把握することは難しいが、今回の調査では表面波探査を概ね50mピッチで行っているため、比較的精度は高いほうと考える。 地形や地表に露出している溶岩等を確認しながら判断した範囲である。 今後のボーリング結果や表面波探査により、より高い精度に範囲が示せると考える。 ※資料3にて説明</p>
	<p>委員: 溶岩の先端は、舌状になっているはずである。記載頂いている線は実情を表現しているとは思えない。</p>	<p>今回把握したい内容は、東街区の地質である。 溶岩の詳細な形状を把握することが主たる目的ではないため、溶岩の先端の形状は可能な範囲で確認する。 ※資料3にて説明</p>